

# 鳥取駅周辺再生基本計画

(案)

次の50年へ。未来創造ステーション  
ーワクワクが止まらない、駅からはじまるミライのカタチー

令和6年3月

鳥取市

# 目次

## 1. はじめに

- 1-1. 作成の目的 . . . . . 1
- 1-2. 計画の位置づけ . . . . . 2
- 1-3. 計画の対象範囲 . . . . . 4

## 2. 鳥取駅周辺の現状と課題

- 2-1. 鳥取駅周辺の現状 . . . . . 5
- 2-2. 鳥取駅周辺の課題 . . . . . 9

## 3. 鳥取駅周辺の再生に向けたビジョン

- 3-1. 基本理念 . . . . . 11
- 3-2. 目指す将来像と込めるメッセージ . . . . . 12

## 4. 取組の方向性

- 4-1. 鳥取駅周辺再整備の基本方針 . . . . . 17
- 4-2. 整備イメージ . . . . . 19
- 4-3. 基本方針別の取組内容について . . . . . 21

## 5. 鳥取駅周辺の再生に向けて

- 5-1. 今後のスケジュール . . . . . 36
- 5-2. 今後の検討課題 . . . . . 37

# 1 はじめに

## 1-1. 作成の目的

本市は、因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏(以下、麒麟のまち圏域)の中心市として、経済や観光、交流、防災面において、重要な役割を担っています。全国的にも人口減少、少子高齢化が進む中、本市も例外ではなく、次の時代を担う若者の流出、それに伴うまちの活力・魅力の低下、商店街の衰退、地域の持続性の課題、老化が進む利便性の低下した鳥取バスターミナル(以下、バスターミナル)など、鳥取駅周辺を取り巻く環境は多くの課題を抱えています。

引き続き、人口減少、少子高齢化が急速に進展する中で、持続可能なまちづくりには、市民が本市の中心である鳥取駅周辺に魅力や誇り、愛着をもつシビックプライドの醸成が急務です。特に、本市に住む学生や若い社会人、子育て世代などの若者のシビックプライドを育むことは、鳥取への定住に繋がり、優れた人材の確保、文化・芸術の伝承、それに伴う地域活性化や地域経済の維持などの効果が期待されます。

そのためには、人口減少を前提に諦めるのではなく、人口減少に立ち向かう意志をもって、本市の次の時代を担う若者が住み続けたいと思える鳥取駅周辺の再生に取り組むことが今の世代の責務です。若者が住み続けたい、再び愛着のある地元に戻って暮らしたいと思えるまちづくりは、人口流出を食い止め、それに起因する自然減の抑制にも繋がる思想を持って取り組む必要があります。

鳥取駅周辺再生基本計画(以下、本計画)は、鳥取駅を舞台にヒト・モノ・コトが集積し、交流の輪が人材を育成し続ける再生産の好循環を生み出し、市民がワクワクする鳥取駅周辺に再生していくための指針を示すものです。

最後に、本計画は、具体的な再生に向けたビジョンと中長期的なロードマップを示し、今後実現に向けて、国、県、市、民間事業者の多様な主体と連携しつつ、民間活力の活用も含めた整備に取り組んでいきます。



図 現在の鳥取駅周辺

## 1-2. 計画の位置づけ

本計画は、鳥取県や麒麟のまち圏域の計画と整合を図りつつ、本市の上位・関連計画に即して位置づけます。

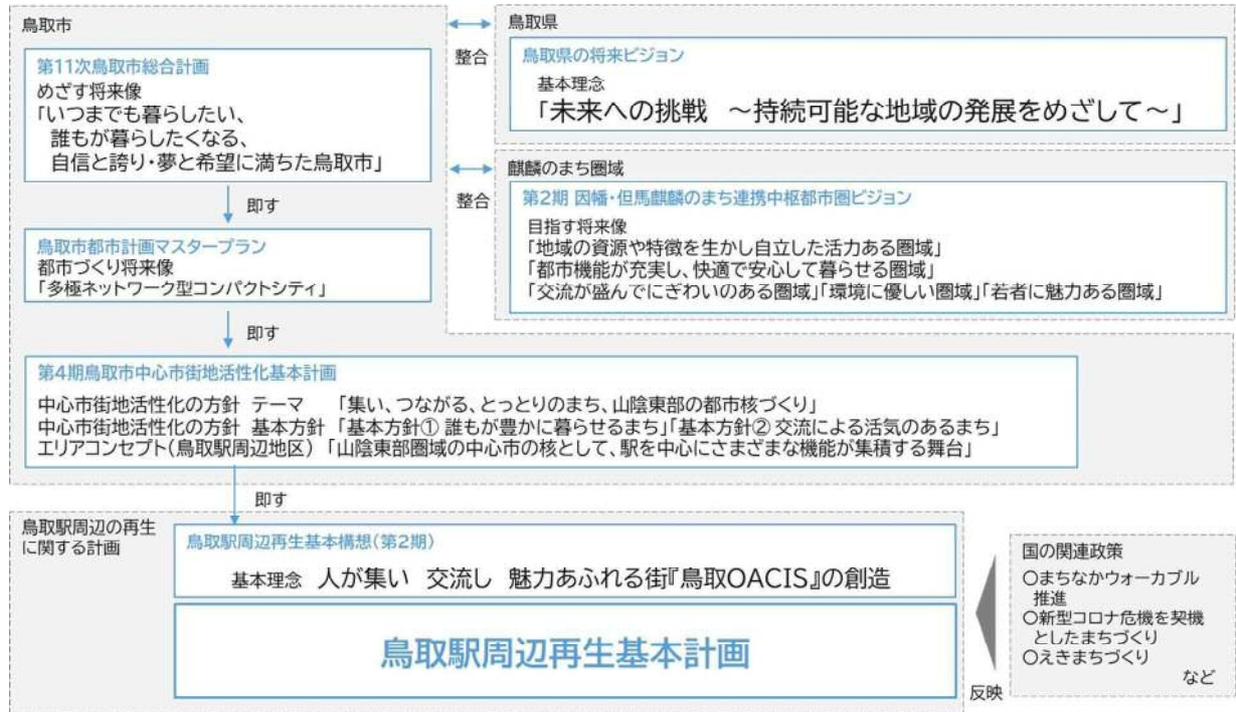


図 計画の位置づけ

<参考:本市の中心市街地の位置づけ>

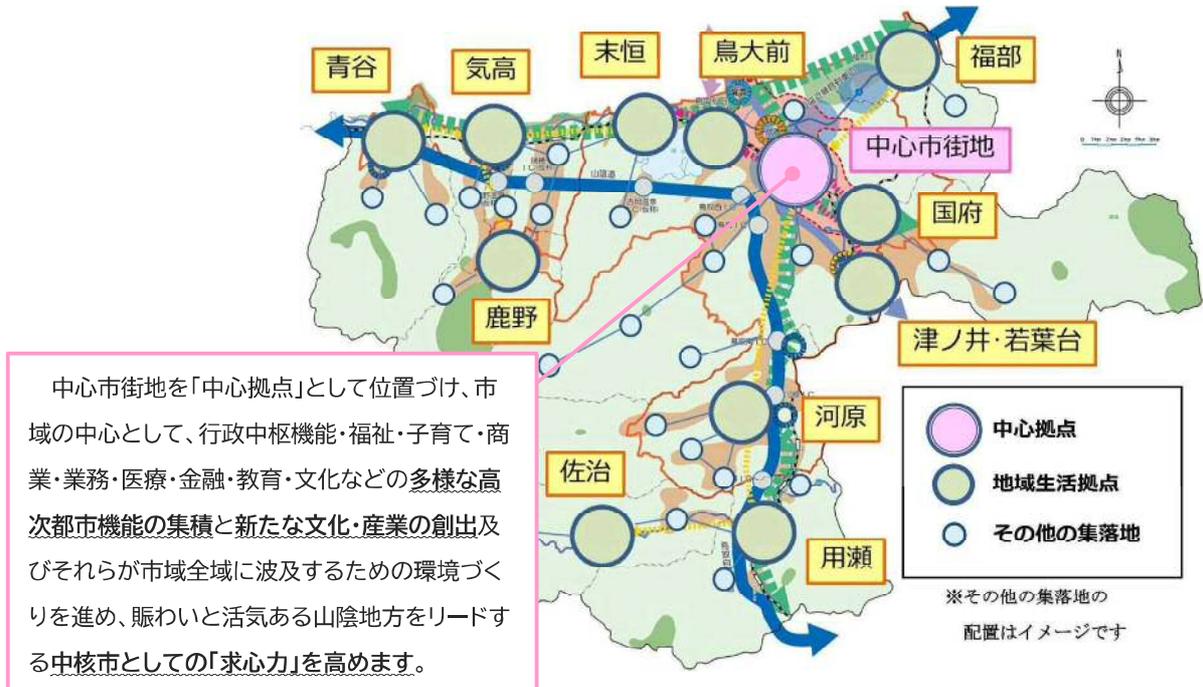
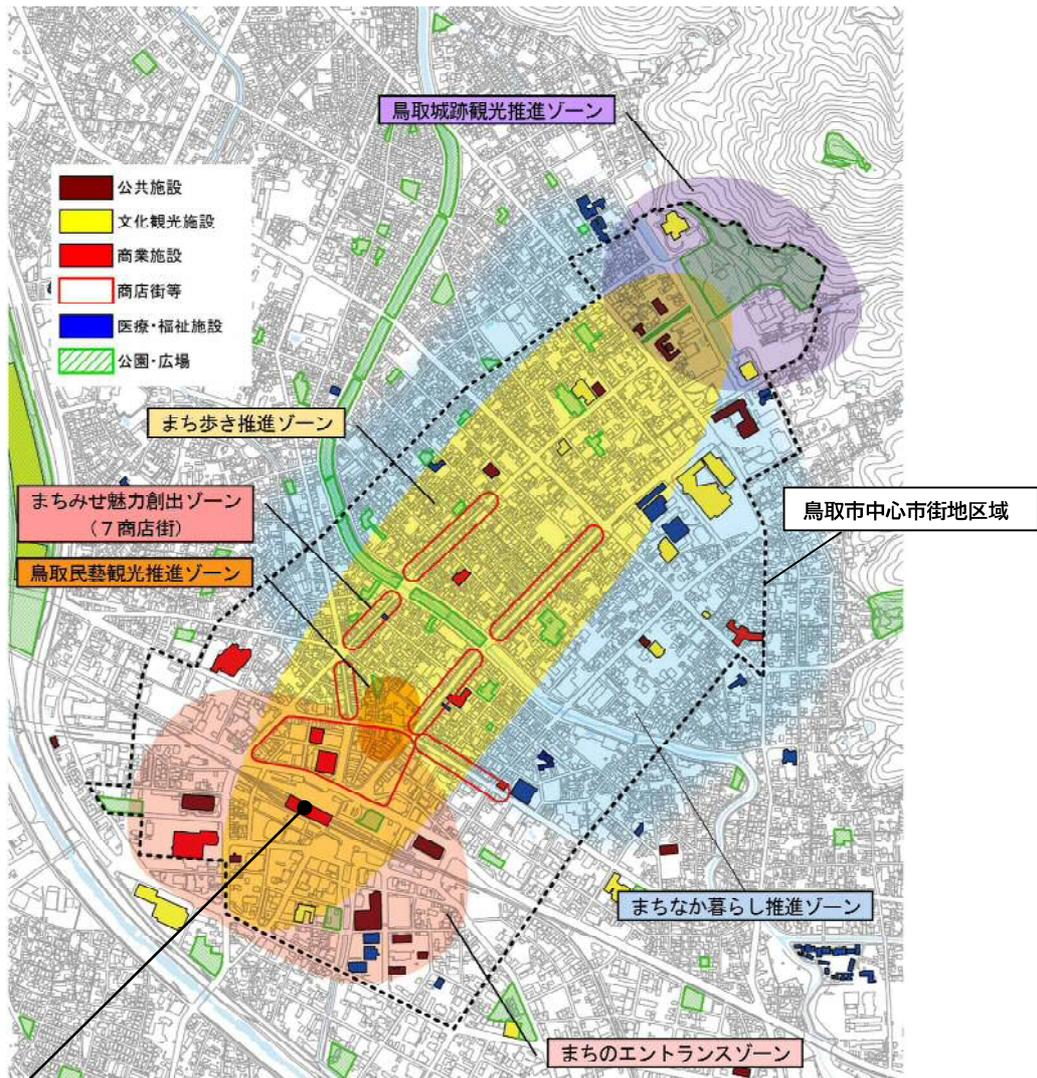


図 多極ネットワーク型コンパクトシティの概念図

出典 鳥取市都市計画マスタープラン(平成29年3月 鳥取市)

<参考:鳥取駅周辺地区の位置づけ>



**鳥取駅周辺地区**  
**方向性:山陰東部圏域の中心市の核として、駅を中心にさまざまな機能が集積する舞台**

○**まちのエントランスゾーン** …【鳥取駅周辺】  
 歩行者動線の改善、交通結節点機能の強化、観光情報の発信、駅南北の回遊性向上などにより、市の玄関口としての魅力や機能の向上を図ることと併せて、情報発信や健康づくり、子育て支援機能などの市民サービス機能の充実・強化を図る。

○**鳥取民藝観光推進ゾーン** …【民藝館通り周辺】  
 鳥取民藝等の地域資源を活かして、空き店舗活用や通り環境整備等により観光交流の促進を図る。

○**まちみせ魅力創出ゾーン** …【7商店街】  
 商店街が連なる通りとその周辺の商業機能が集積したゾーンであり、新規開業の促進や既存個店の経営強化、既存ストックの利活用を通じて、賑わいや魅力を創出する。

○**まちなか暮らし推進ゾーン** …【袋川から末広通り一帯】  
 地域住民等と連携した空き家等の利活用や子育て支援機能の強化により、若年層の居住の促進を図る。

○**まち歩き推進ゾーン** …【二軸周辺】  
 公民の公共空間を「人中心」の空間へ転換し、ウォーカブルな環境を創出することで、居心地が良く歩きたくなるまちなかの推進を図る。また、100円循環バス「くる梨」の活用、まち歩きの推進等により回遊・滞在性を強化する。

図 中心市街地活性化のゾーン設定の概念図

出典 第4期鳥取市中心市街地活性化基本計画(令和5年4月 鳥取市)

### 1-3. 計画の対象範囲

本計画の対象範囲は、鳥取駅周辺再生基本構想(第2期)の対象区域内に含まれる、下図に示す区域とします。

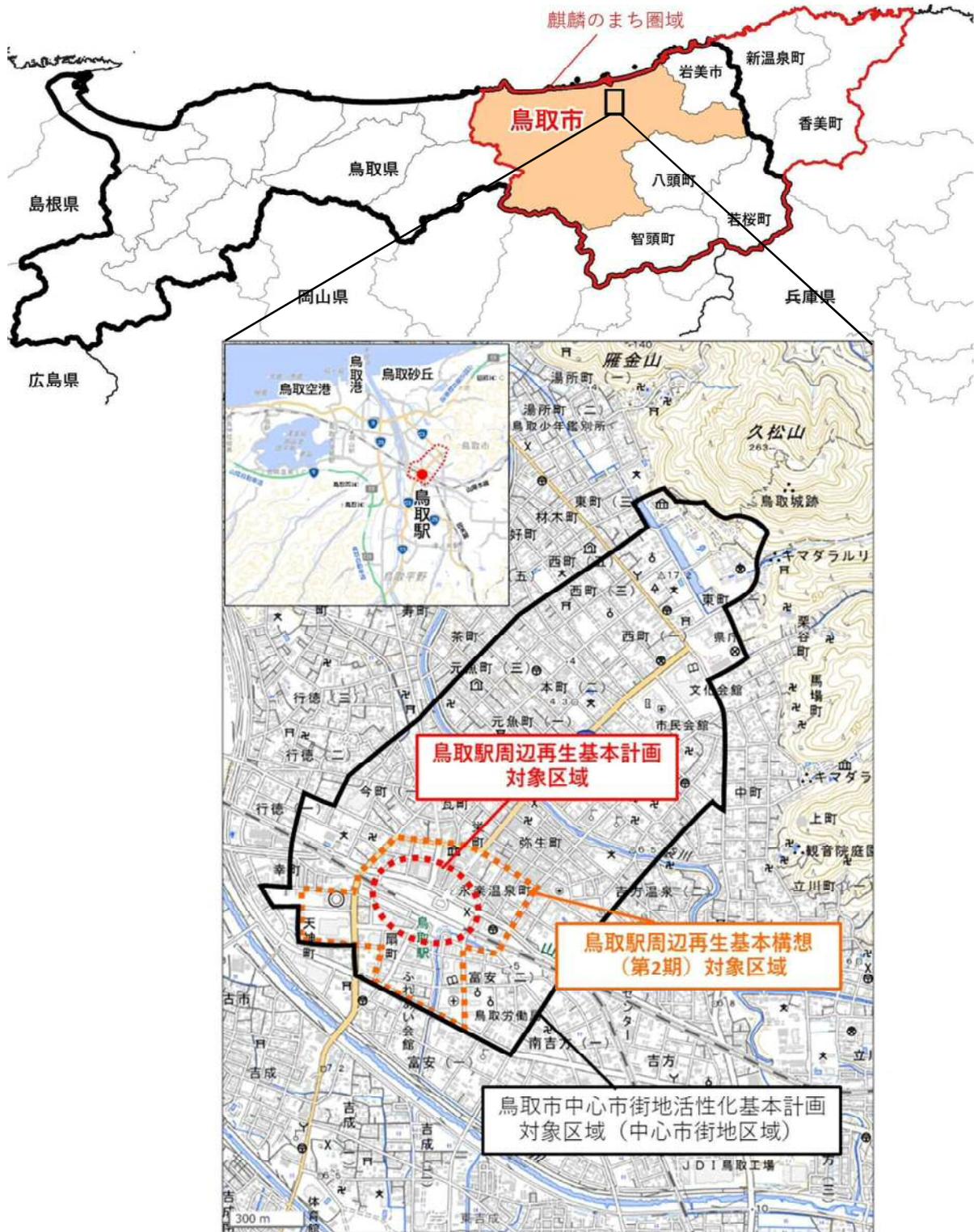


図 計画の対象範囲

出典 地理院地図ほか

## 2 鳥取駅周辺の現状と課題

### 2-1. 鳥取駅周辺の現状

#### 豊富な資源を有するポテンシャルを秘めた地域

- 麒麟のまち圏域は、古くから一体的な生活圏を形成しています。その中で本市は、鳥取砂丘・コナン空港や鳥取港が位置する麒麟のまち圏域の交通の要衝地であり、経済、観光、交流、防災の拠点となっています。
- 日本を代表する観光地である「鳥取砂丘」をはじめ、日本一の山城「鳥取城跡」や、国重要文化財「仁風閣」、「鳥取民藝美術館」、「鳥取温泉」、「桜土手」などのポテンシャルの高い観光資源を有しています。
- 鳥取県の観光入込客数は約800万人/年と、多くの観光客が訪れています。特に、外国人延べ宿泊者数は約1.2万人/年など、今後もインバウンド観光客の増加が期待され、鳥取砂丘周辺ではハイグレードホテルの建設が予定されています。



図 鳥取市の拠点性



図 鳥取駅周辺のポテンシャル

## 鳥取駅周辺施設等の老朽化

- バスターミナルや地下通路、風紋広場、市営駐輪場など、鳥取駅周辺の施設では老朽化が進行しています。
- 市内の文化施設は建設から半世紀が経過し、複数の施設が同時期に改修・改築を迎えています。

## 鳥取駅周辺の防災機能の充実

- 鳥取駅周辺は、一級河川である千代川の氾濫時に浸水が予測されています。
- 鳥取駅周辺に一時的な避難場所や帰宅困難者の受入れ環境など、今後、大規模な災害が発生した場合の備えが必要な状況です。

## 周辺道路における交通混雑

- 鳥取駅北側のバスターミナルを拠点に市内の東西南北にバス路線が伸び、平日 868 便/日、休日 660 便/日(R5 時点)と多くのバスが発着しています。
- 鳥取駅西側の今町2丁目交差点は、主要渋滞箇所指定されるなど、周辺道路が混雑しています。

## 市民や利用者からのまちづくりに対するニーズ

- 市民からは、今後のまちづくりの方向性として「人が集まるにぎやかな交流・観光のまちづくり：49.8%」や「災害に強く安全・安心に暮らせるまちづくり：45.1%」などを要望する声が多いです。
- また、中心市街地活性化について取り組むべきこととして、娯楽・宿泊施設、文化・芸術、商業施設など賑わい拠点機能の整備や、持続可能な利便性の高い交通サービスの提供が求められています。
- 駅利用者からは飲食店やおしゃれなカフェなどを求める声が多いです。

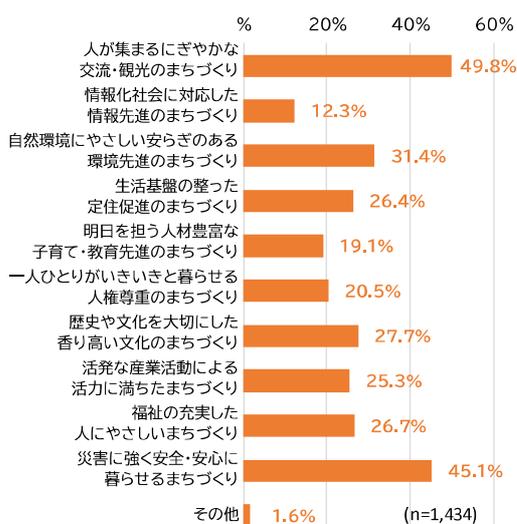


図 鳥取市の今後のまちづくりの方向性  
 出典 鳥取市中心市街地活性化に関する調査 (令和4年3月)

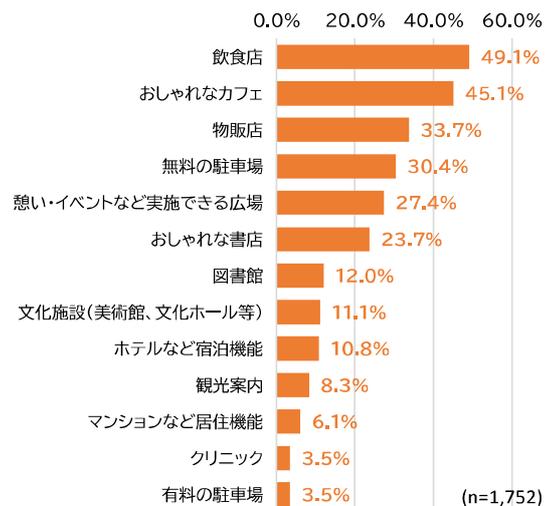


図 鳥取駅周辺に求める機能  
 出典 鳥取駅周辺憩いと賑わい創出実証事業アンケート (令和6年3月時点)

## 個別箇所の現状〔鳥取駅周辺〕

- 鳥取駅周辺は、施設などの老朽化が進み、利便性が低下するなど、時代のニーズに沿った対応などが求められている状況です。



図 鳥取駅周辺の現状

## 個別箇所の現状〔バスターミナル〕

- バスターミナルは、建設から40年以上が経過して施設の老朽化が進み、待合環境の改善やバス運行の効率性・安全性の確保などが求められている状況です。

**1**

- ・今町交差点の渋滞により、バスの侵入が困難
- ・バス、歩行者、自転車、一般車両の動線が錯綜

**2**

- ・送迎車両がバスターミナル付近に路上駐車し後続車両の進行を阻害

**3**

- ・多目的トイレが待合室の外にあり使いづらい

**4**

- ・バスターミナルビルの老朽化
- ・待合空間の改善（待合スペースとトイレが隣接）
- ・キャッシュレス決済の環境整備・女子トイレが慢性的に混雑

**5**

- ・高速バス乗り場が狭小なため、利便性が悪く、通行にも支障が発生

**6**

- ・高速バス乗り場が狭小なため、利便性が悪く、通行にも支障が発生

**7**

- ・降車バスに一般車両が駐車し、降車に支障が発生

**8**

- ・バスターミナルには、日本交通と日ノ丸自動車の路線バスと高速バスが発着  
 【発着便数（R5.10時点）】  
 ○路線バス  
 平日 832 便 休日 616 便  
 ○高速バス  
 平日 36 便 休日 44 便

**9**

- ・出口が一車線のため、左折、直進、右折車が混雑

**10**

- ・繁忙期、循環バス・観光バス乗り場が混雑し、通行に支障が発生
- ・循環バス、砂丘行バスの便数が多く、バスが混雑し、わかりづらい

**11**

- ・ターミナル内に横断歩道が3カ所もあり、バス運行に支障が発生
- ・一部アーケードが未整備

**12**

- ・待機バスに停車する際に、一般車両の通行に支障が発生
- ・一般車両が、バスターミナル内に進入、停車する状況が多発

**13**

- ・待機バスが少なく、本社からの回送が多い
- ・積雪の際に除雪の集積場となり待機バスが利用できない

図 バスターミナルの現状

## 2-2. 鳥取駅周辺の課題

### 麒麟のまち圏域の課題

- 麒麟のまち圏域では、平成2年をピークに人口が減少し続けています。今後も人口減少、少子高齢化の進行が見込まれる中、誰もが安全で安心して快適に暮らし続けられるまちづくりを進めていく必要があります。
- そうした中、本市は麒麟のまち圏域の中心市として経済、観光、交流、防災の拠点機能の対応が求められています。
- 特に、生活に必要な“移動”を守るため、地域公共交通サービスの維持や交通弱者への対応が不可欠です。

### 鳥取駅周辺の課題

- バス路線が駅北側のターミナルに集中し、周辺道路ネットワークの混雑の一因になっているなど、交通アクセス、ターミナル機能を強化することが求められています。
- 麒麟のまち圏域の住民や来訪者への意向調査によると、様々な世代、特に若者や子育て世代が楽しめる賑わいを創出させるための機能や若者がゆっくと過ごし、集える場としての機能が求められています。
- 誰もが安全・安心に移動できる歩いて楽しめる空間の確保が求められています。
- 駅での賑わいが駅前商店街や中心市街地へ広く浸透していくための回遊性機能の向上や、回遊させるための仕組み・取組が必要です。
- 来訪者に対する観光や文化などの情報提供・発信機能の充実が必要です。
- 今後、自動運転技術の進展やMaaSの普及に対応した新モビリティに対応することが求められています。
- 近年、多発する災害に備え、一時避難場所や帰宅困難者の受入れ環境などの災害支援の活動拠点等としての機能の充実が必要です。
- 鳥取駅周辺都市改造事業から約半世紀が経過するなかで、時代に沿った交通施設等の機能の再構築が求められています。

具体的な内容は以下の通りです。

○風紋広場、駐輪場、バスターミナル、地下通路などの施設の老朽化へ対応

○自家用車、タクシー、バスなど、交通ターミナル内の機能分担、動線整理

○一般車送迎場所の確保

○地下通路のバリアフリー化など、利用者動線の改善

○雨天、降雪などの悪天候時の利用環境の改善やキャッシュレス化など、他の交通モードからシームレスに利用できる環境の整備

○待合空間や停留所、トイレ、喫煙スペースなどの待合環境の改善

○バス運行に係る運行管理の安全性、効率性の向上

○駅北側への店舗誘致や駅南との賑わいの連動、コンコースの空間の有効活用による賑わい創出

○土日祝日は満車状態となる駐車場不足への対応

鳥取駅やバスターミナルが抱える様々な課題を解消し、交通結節点として、モーダルコネクトの強化、滞留性・賑わいの向上、防災機能の充実を図ることで、鳥取駅の拠点性を向上し、鳥取駅周辺や本市、麒麟のまち圏域からヒト・モノ・コトの好循環な流れを生み出す拠点としての鳥取駅周辺の再生が求められています。

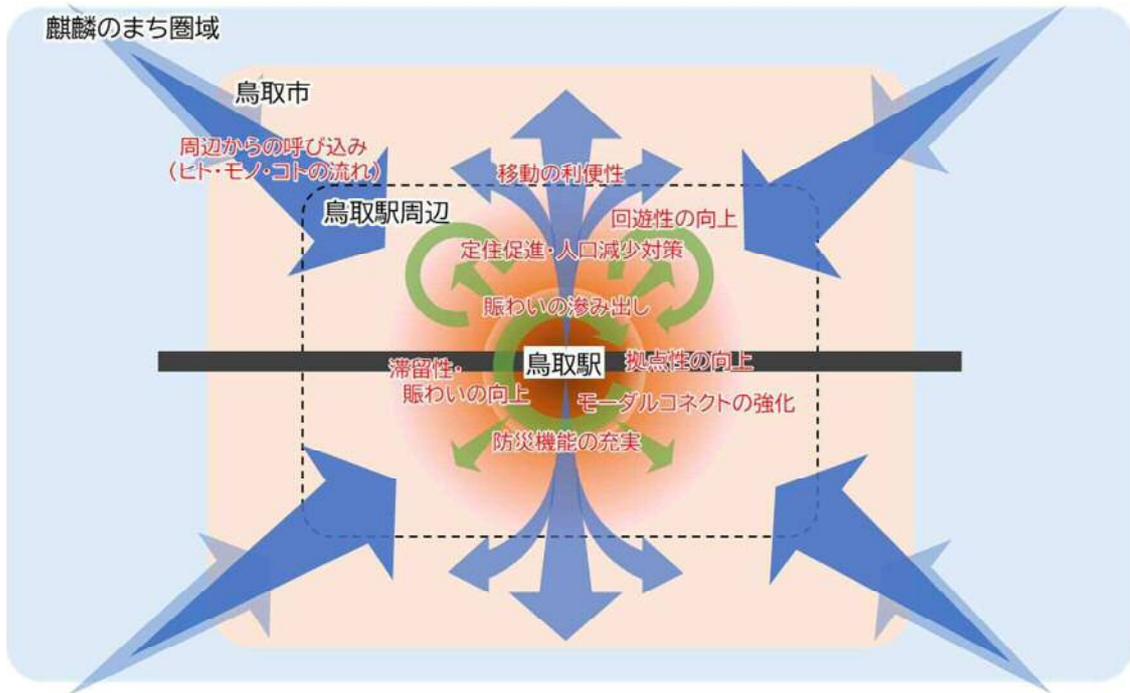


図 鳥取駅周辺の位置づけ

## 3 鳥取駅周辺の再生に向けたビジョン

### 3-1. 基本理念

本計画は、鳥取駅周辺再生基本構想(第2期)の基本理念を踏まえて策定します。

<基本理念>

## 人が集い 交流し 魅力あふれる街『鳥取O<sup>オ</sup>A<sup>ア</sup>C<sup>シ</sup>I<sup>ス</sup>S』の創造

<趣旨>

鳥取駅周辺地区では、市の広域交通の起点(Origin)として魅力的(Attractive)で人々が集い・交流(Communication)が進み、また新時代に対応した各種情報(Information)がますます集積する、持続可能(Sustainable)なまちづくりをめざします。

<実現に向けた視点>

#### ①賑わい

- 人々が集い賑わいを生む駅前空間を「賑わいの起点」として積極的に活用します。
- さらに、その場所から生まれる賑わいを鳥取駅周辺へと広げることにより、エリア全体の価値が向上することをめざします。

#### ②憩い

- 駅前と鳥取駅周辺との物理的・心理的バリアを取り除き、市民や来訪者が気軽に憩い過ごせる「憩いの場」となるよう、駅前と鳥取駅周辺が一体となったエリア形成をめざします。

#### ③適応

- 公民連携のもと、新型コロナ危機を契機とした社会構造の変化に適応した「鳥取OACIS」の創造をめざします。
- さらに、今後の技術革新や社会的要求の変化などへも柔軟に適応することをめざします。



図 将来像のイメージ(左:道路空間における賑わいや憩いの「場」の創出、右:情報発信・観光交流拠点としての「場」の創出)

出典 鳥取駅周辺再生基本構想(第2期)(令和3年3月 鳥取市)

## 3-2. 目指す将来像と込めるメッセージ

### (1) 目指す将来像と込めるメッセージ

鳥取駅周辺が目指す将来像は以下のとおりとします。

<目指す将来像>

# 次の50年へ。未来創造ステーション

## -ワクワクが止まらない、駅からはじまるミライのカタチ-

<込めるメッセージ>

ことば	ことばの意味・込めた思い
次の50年へ	今を生きる我々が、次の50年へと繋ぐ架け橋となり、感動に満ちた輝かしい未来を描き、その礎となる中心拠点を創り上げる。
未来創造	産官学金が連携し、新しいライフスタイルと多様な人々の交流の場を築き、未来をリードする人材を育む好循環な環境を形成し、鳥取の未来、山陰の未来、日本の未来を創造する。
ステーション	多様な機能が融合し、人・情報・ビジネスが日々交錯し、革新的なイノベーションが活発に起こる、輝かしい未来を築く創造拠点とする。

<再生の基本コンセプト>

- 麒麟のまち圏域の新たなランドマークとなる、個性豊かなまちづくりの拠点
- 特に若者や子育て世代が集い、楽しみ、交流できる、カジュアルでおしゃれな空間
- 居心地が良く、歩きたくなる空間(ウォークブル推進都市の実現)
- 通常時や災害時ともに、賑わい創出、防災機能を発揮できる拠点





### (3) 課題解決の方向性

本計画の基本理念、目指す将来像、再生の重要な視点を踏まえ、課題解決の方向性を以下のとおりとします。

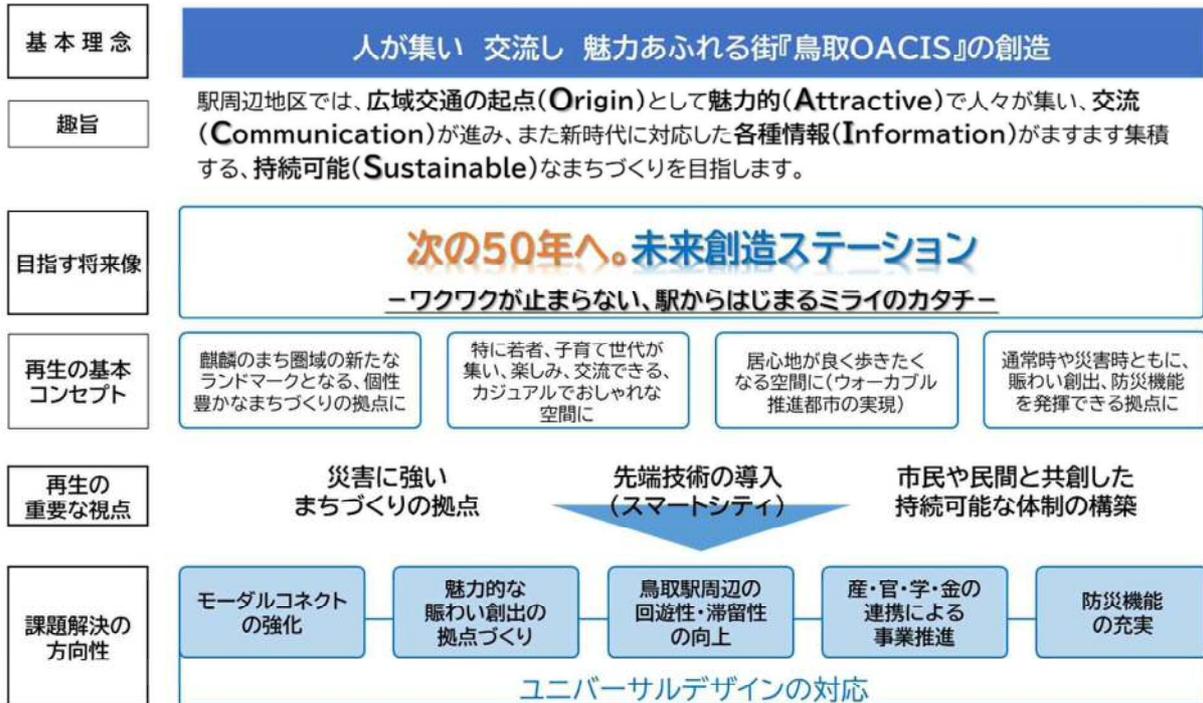


図 課題解決の方向性

#### モーダルコネクトの強化

- バスターミナルや待合環境の老朽化、鉄道とバスの乗り継ぎの不便さ、利用者離れ、サービス水準の低下など公共交通を取り巻く環境は厳しさを増しています。一方で、近年は、自動運転や電動キックボードをはじめとした小型化やパーソナルな新モビリティの導入など多様化してきています。また、駅やバスターミナルは災害時においても移動手段の確保、運行の継続、さらには避難者の受け入れなど防災拠点としての機能が求められています。
- そのため、モーダルコネクトを強化し、市民や来訪者などが利用しやすく、災害にも強い、安心して快適な交通ネットワークの形成を目指していきます。

#### 魅力的な賑わい創出の拠点づくり

- 現在の鳥取駅周辺は市民がワクワク感を持って集い、憩うための魅力や機能を失っています。麒麟のまち圏域の中心拠点、本市の玄関口としての鳥取駅周辺は、若者や子育て世代が魅力を感じ、駅へ訪れるライフスタイルを創出すること、また観光客やビジネス等の来訪者が鳥取駅に降り立った瞬間から鳥取らしさや都市的な魅力を感じれる拠点となることが求められています。
- そのため、鳥取の新たな顔となるような魅力的な賑わい拠点づくりを行い、市民や来訪者が鳥取駅周辺に集い、楽しむまちづくりを目指していきます。

## 鳥取駅周辺の回遊性・滞留性の向上

- 鳥取駅周辺には高校生等の若者が放課後に安心して過ごせる場所や子育て世代が屋外で安心して交流する場が不足しています。また駅前商店街も若者が気軽に立ち寄れる店舗などが少なく、まちなかで時間を過ごせる居場所づくりが求められています。
- そのため、若者や子育て世代にとっての憩いの場となる滞留空間としての賑わい広場を整備するとともに、子供からお年寄りまでの誰もが安心して鳥取駅周辺を回遊できる動線の確保など、上質で居心地の良い空間を作り出すことで、若者が誇りや愛着を持って暮らし続けたいくなるまちづくりを目指していきます。

## 産・官・学・金の連携による事業推進

- 人口減少に伴う地方財政のひっ迫は、ますます厳しさを増していきます。一方で人口減少に歯止めをかけるためには、魅力や活力あるまちづくりを維持していくことが不可欠です。そのような状況の中、鳥取駅周辺の再生を進めるためには、公共投資のみに依存せず、民間活力の活用も視野に入れた事業の推進が求められます。
- そのため、鳥取駅周辺の再生には、駅前のバスターミナルや賑わい広場等の公共空間への公的投資と併せて、商業施設、住居、宿泊施設等の民間施設の誘導を図り、公共公益施設等複合的な施設整備を民間のノウハウや資金力を活かしながら事業を推進していきます。

## 防災機能の充実

- 近年、全国各地で災害が多発する中、災害時の防災拠点としての交通拠点の機能強化や災害復旧・復興時の公共交通の運行確保、維持の重要性が注目されています。特に本市では、豪雪時におけるバスターミナル機能の維持は重要な課題です。また、観光地として国内外からも多様な観光客が訪れる場所として、鳥取駅周辺での災害時における防災機能の充実が求められています。
- そのため、災害時に駅や駅前広場に避難者を受け入れることを想定した空間整備やバス等の公共交通の運行が維持できるよう積雪にも備えた余裕スペースを考慮したバスターミナルの整備、外国人観光客にも対応した情報案内設備など防災機能の充実を図り、災害に強い鳥取駅周辺を目指します。

## ユニバーサルデザインの対応

- 更なる高齢化の進展や高まるインバウンド需要に対応していくためには、鳥取駅周辺の施設や歩行空間のバリアフリー化、分かり易い案内表示などユニバーサルデザインに配慮することが求められます。
- そのため、鳥取駅周辺の再生に関わる整備においては、多様な利用者を見据えたユニバーサルデザインの対応により魅力のある、誇れる環境の整備を目指します。

<参考:現状～課題解決の方向性の体系的整理>

現 状

■麒麟のまち圏域の現状

- 麒麟のまち圏域は、古くから一体的な生活圏を形成。
- その中で本市は、鳥取砂丘・コナン空港や鳥取港が位置する麒麟のまち圏域の交通の要衝地であり、経済、観光、交流、防災の拠点となっている。
- 本市の高齢化率が30.54%で、老年人口の割合は今後さらに上昇傾向。年少人口は減少傾向。鳥取市内の各駅乗車人数は令和2年度以降大幅に減少、バス利用者数も減少傾向、全国的にも運転者不足が問題。
- 日本を代表する観光地である「鳥取砂丘」をはじめ、日本一の山城「鳥取城跡」や、国重要文化財「仁風閣」、「鳥取民藝美術館」、「鳥取温泉」、「桜土手」などのポテンシャルの高い観光資源を有す。
- 鳥取県の観光入込客数は約800万人/年と、多くの観光客が訪れている。特に、外国人延べ宿泊者数は約1.2万人/年など、今後もインバウンド観光客の増加が期待される。
- 鳥取砂丘周辺ではハイグレードホテルの建設が予定。

■鳥取駅周辺の現状

- 鳥取駅周辺を中心とした鉄道・路線バス・高速バスやタクシーなどの交通結節点
- 風紋広場、市営駐輪場、バスターミナル、地下通路などの鳥取駅周辺施設等の老朽化が進行。
- 市内の文化施設は建設から半世紀が経過し、複数施設が同時期に改修・改築を迎える。中心市街地には文化・芸術・娯楽施設が少ない。
- 鳥取駅周辺は、一級河川である千代川の氾濫時に浸水が予測。
- 一時的な避難場所や帰宅困難者の受入れ環境など、今後、大規模な災害が発生した場合の備えが必要な状況
- 鳥取駅北側のバスターミナルを拠点に市内の東西南北にバス路線が伸び、平日868便/日、休日660便/日(R5時点)と多くのバスが発着。
- 鳥取駅西側の今町2丁目交差点は、主要渋滞箇所指定されるなど、周辺道路が混雑。
- 市民アンケートでの今後のまちづくりの方向性として「人が集まるにぎやかな交流・観光のまちづくり:49.8%」や「災害に強く安全・安心に暮らせるまちづくり:45.1%」などを要望する声が多い。
- 市民アンケートでは、中心市街地活性化について取り組むべきこととして、娯楽・宿泊施設、文化・芸術、商業施設などが挙げられているとともに、麒麟のまち圏域の住民アンケートでは、商店街の活気や景観、駐車場・駐輪場、公共交通に対する評価が低いなど、鳥取駅周辺に賑わい拠点機能の整備や、持続可能な利便性の高い交通サービスの提供が求められている。
- 駅利用者からは飲食店やおしゃれなカフェなどを求める声が多い。
- 鳥取駅周辺は、施設などの老朽化が進み、利便性が低下するなど、時代のニーズに沿った対応などが求められている。

<ケヤキ広場>

- ・ケヤキ広場は、薄暗く寂しい印象
- ・ケヤキ広場の喫煙スペースは、煙や臭いなどによる環境問題が懸念

<まちなかへの導線>

- ・地下通路のバリアフリー化が未整備
- ・特に地下通路は老朽化が進み、雨天時に雨が侵入
- ・まちなかへの横断歩道は2か所のみと限られている

<鳥取駅>

- ・鳥取市観光案内所は、狭小スペースによる案内機能不足
- ・鳥取市国際サポートセンターは、わかりづらく、利用しづらい立地
- ・コンコースは商業店舗に空きがある等、活用が十分でない

<風紋広場>

- ・風紋広場の利活用の促進による賑わい創出

<北口交通広場>

- ・自家用車の乗入とタクシー駐車場の混在による自動車交通の輻輳

<南口交通広場>

- ・高速バス乗り場の分散
- ・自家用車、タクシー、バスの混在による自動車交通の輻輳

<市営駐輪場>

- ・電動キックボードなど新たなモビリティへの対応

○バスターミナルは、建設から40年以上が経過して施設の老朽化が進み、待合環境の改善やバス運行の効率性・安全性の確保などが求められている状況。

<バスターミナル:ターミナル>

- ・バスターミナル西側の交差点では、バス、一般車、歩行者、自転車の動線が錯綜
- ・送迎車両がバスターミナル付近に路上駐車し後続車両の侵入を阻害
- ・バスターミナルの出口が一車線のため、左折、直進、右折車が混雑
- ・バスターミナル内に横断歩道が3か所もありバス運行に支障が発生
- ・一部、アーケードが未整備

<バスターミナル:トイレ、待合環境>

- ・多目的トイレが待合室の外にあり使いづらい
- ・女子トイレが慢性的に混雑
- ・待合スペースとトイレが隣接する待合環境の改善
- ・キャッシュレス決済の環境整備

<バスターミナル:乗り場>

- ・高速バス乗り場が狭小なため、利便性が悪く、通行にも支障が発生
- ・繁忙期、循環バス・観光バス乗り場が混雑し、通行に支障が影響
- ・循環バス、砂丘行バスの便数が多く、バスが混雑し、わかりづらい

<バスターミナル:降車バス>

- ・降車バスに一般車両が駐車し、降車に支障が発生

<バスターミナル:待機バス>

- ・待機バスに停車する際に、一般車両の通行に支障が発生
- ・一般車両が侵入、停車する状況が多発
- ・待機バスが少なく、本社からの回送が多い
- ・待機バスは積雪の際に除雪の集積場となり利用できない

上位・関連計画のまちづくりの方向性

課 題

■麒麟のまち圏域の課題

- 今後も人口減少、少子高齢化の進行が見込まれる中、誰もが安全で安心して快適に暮らし続けられるまちづくり

- 麒麟のまち圏域の中心市として経済・観光・交流・防災の拠点機能の対応

- 生活に必要な“移動”を守るため、地域公共交通サービスの維持や交通弱者への対応

■鳥取駅周辺の課題

- バス路線が駅前に集中し運行に支障が生じているなど、麒麟のまち圏域の拠点性を活かした交通アクセス、ターミナル機能の強化が求められている

- 様々な世代、特に若者や子育て世代が楽しめる賑わいを創出させるための機能や若者がゆっくりと過ごし、集える場としての機能が求められている

- 観光や文化等の情報提供・発信機能の充実

- 誰もが安全・安心に移動できる円滑かつ利便性の高い利用者動線の形成

- 自動運転技術の進展やMaaSの普及に対応した新モビリティの拠点の整備

- 近年、多発する災害に備え、一時避難場所や帰宅困難者の受入れ環境などの災害支援の活動拠点等としての機能の充実が必要

- 駅での賑わいを駅前商店街や中心市街地へ広く浸透していくための回遊性機能の向上や、そのための仕組み・取組が必要

鳥取駅周辺都市改造事業から約半世紀が経過するなかで、時代に合った交通施設等の機能の再構築が求められている

- 風紋広場、駐輪場、バスターミナル、地下通路などの施設の老朽化へ対応

- 自家用車、タクシー、バスなど、交通ターミナル内の機能分担、動線整理

- 一般車送迎場所の確保

- 地下通路のバリアフリー化など、利用者動線の改善

- 雨天、降雪などの悪天候時の利用環境の改善やキャッシュレス化など、他の交通モードからシームレスに利用できる環境の整備

- 待合空間や停留所、トイレ、喫煙スペースなどの待合環境の改善

- バス運行に係る運行管理の安全性、効率性の向上

- 駅北側への店舗誘致や駅南との賑わいの連動、コンコースの空間の有効活用による賑わい創出

- 土日祝日は満車状態となる駐車場不足への対応

再生の重要な視点

市民や民間と共創した持続可能な体制の構築

災害に強いまちづくりの拠点

先端技術の導入(スマートシティ)

基本理念

人が集い 交流し 魅力あふれる街  
『鳥取OACIS』の創造

目指す将来像

次の50年へ。未来創造ステーション  
 ワクワクが止まらない、駅からはじまるミライのカタチ

課題解決の方向性

モーダルコネク트의強化

魅力的な賑わい創出の  
拠点づくり

鳥取駅周辺の  
回遊性・滞留性の向上

産・官・学・金の連携による  
事業推進

防災機能の充実

ユニバーサルデザインの対応

## 4 取組の方向性

### 4-1. 鳥取駅周辺再整備の基本方針

鳥取駅周辺再整備の基本方針は以下の4つとします。

<基本方針>

- 基本方針① 集約型交通ターミナル機能の再編**
- 基本方針② まちなかへ賑わいを滲み出す空間整備**
- 基本方針③ 市民が集いたくなる利便施設・公共公益施設の整備**
- 基本方針④ 民間の誘導・整備による多機能な複合施設の整備**



図 整備イメージ

## 基本方針① 集約型交通ターミナル機能の再編

- 鉄道、バス、タクシー、自家用車、レンタカー、自転車などの多様な交通モード間をシームレスに乗り換えができる集約型交通ターミナルへ再編します。
- 災害、豪雪への対応や、将来的には新モビリティへの対応も可能な交通結節点を整備します。

### 求められる役割

- 交通結節機能の強化
- 乗換のシームレス化
- 公共交通の利用促進
- 災害時の防災力強化
- 豪雪時のターミナル機能の維持
- 周辺道路ネットワークの円滑化

## 基本方針② まちなかへ賑わいをしみ出す空間整備

- 若者や子育て世代が、過ごしやすく、回遊しやすい人中心の滞留空間の強化に向けて、賑わい広場や歩行者デッキなどの空間を整備します。
- 地域の活動拠点や多様な人々の交流機会を創出する場として、商店街などのまちなかとの連携に配慮した空間整備をします。

### 求められる役割

- 回遊、滞留機能の強化
- 若者や子育て世代の憩いの空間
- 多様な人々の交流機会創出
- 市街地との賑わい連携
- 祭りやイベント等の地域の活動拠点

## 基本方針③ 市民が集いたくなる利便施設・公共公益施設の整備

- JRやバス利用者などの公共交通利用者が快適に過ごせる待合環境の利便性向上や市民が日常的に駅に集うライフスタイルの創出を目指し、文化施設などの公共公益施設を整備します。

### 求められる役割

- 文化機能の充実
- コンベンション機能の確保\*
- まちづくり等の活動の場
- 教育や人材育成などの創造の場
- 地域発の新たなビジネスの創造の場
- 情報発信の充実
- 観光振興の支援

## 基本方針④ 民間の誘導・整備による多機能な複合施設の整備

- 既存施設や商店街などとの連携にも配慮しつつ、魅力ある商業機能、宿泊や住居機能、業務やイノベーション機能を備えた民間施設整備の誘導など、複合施設の整備を図ります。
- 民間投資を誘導するためには、民間の有するノウハウや資金力を最大限に活かした PPP などの整備手法の活用を検討します。

### 求められる役割

- 商業(収益)機能の確保
- 来街意欲の喚起や来街促進
- 宿泊や住居機能による拠点性強化
- 集客性の向上
- まちなかへの経済波及、循環
- 駐車場等の収益機能の確保

※ 「コンベンション」とは、国内外から特定の分野に興味や知見のある関係者が集まる大規模な催しのことを意味します。沢山の人が集まるため、地域産業の発展が期待されます。

## 4-2. 整備イメージ

現状の鳥取駅周辺は、交通や広場などの機能が分散し、利便性や魅力が低下しています。将来は機能を集約して利用者の利便性、快適性を高め、魅力ある鳥取駅周辺となるよう再整備を行います。

### <現状の鳥取駅周辺>

機能の分散や施設の老朽化などにより利便性が低下し、魅力も低下しています。

- 交通機能や広場の分散
- 駅南北の分断
- 商業施設などの魅力の低下
- 休日などでの駐車場の容量不足 など



図 現在の鳥取駅周辺の機能配置

### <将来の鳥取駅周辺>

交通ターミナルや広場など一体性を持った各種機能の集約により、乗り換えの利便性や駅前広場の賑わいを向上します。また、駅南北の分断の解消や魅力ある公共公益施設・民間施設の導入、まちなかとの一体感のある回遊性、滞留性の向上、駐車場の集約、再編などを行います。

- 交通ターミナルの集約
- 広場機能の集約
- 駅南北の機能強化
- 公共公益施設の機能配置
- 民間施設の誘導
- まちなかとの一体感
- 駐車場の集約、再編 など



図 将来の鳥取駅周辺の機能配置

目指す将来像の実現に向けて、駅に集う人のワクワクがとまらない鳥取駅周辺の再整備に取り組みます。

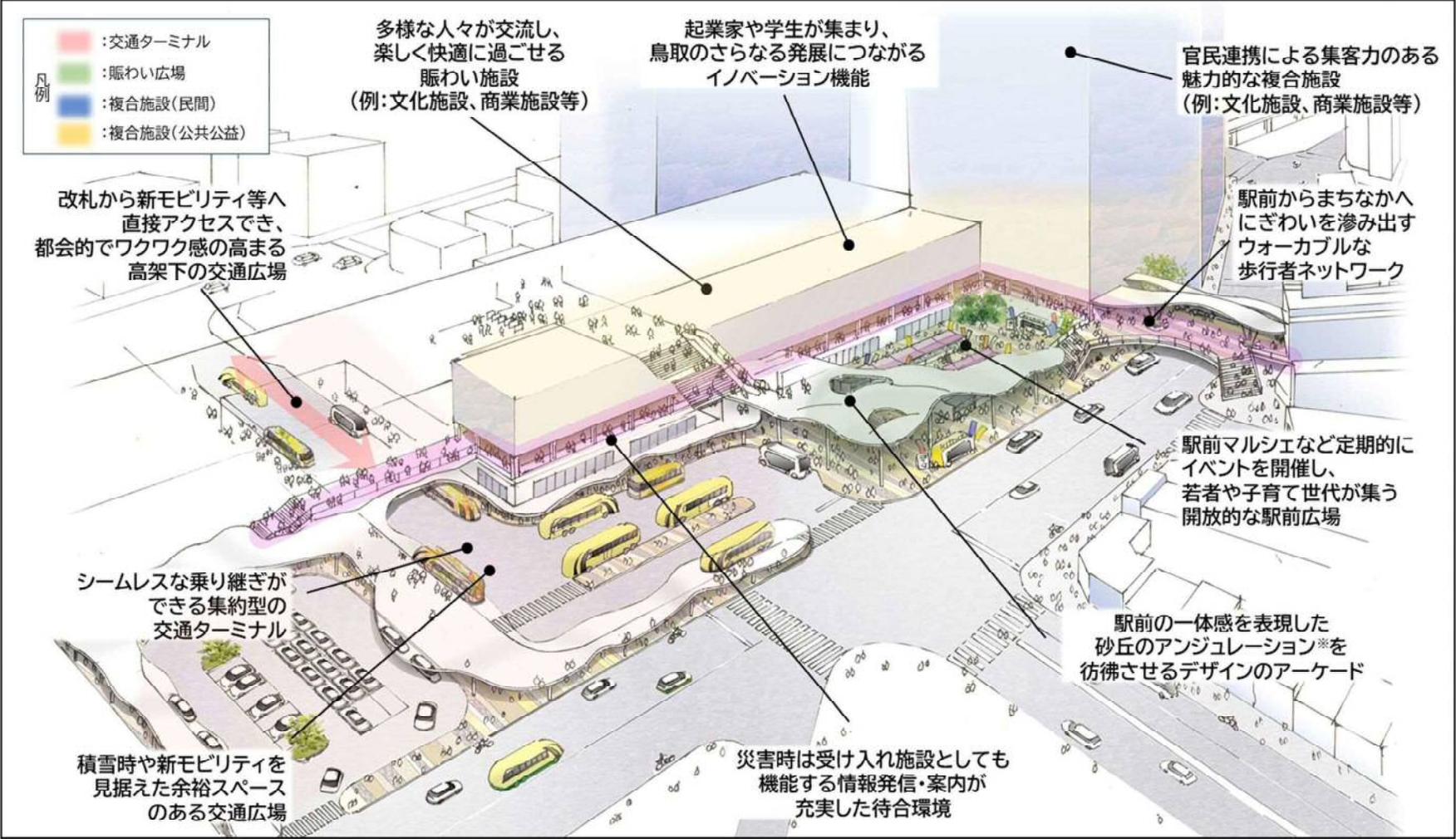


図 鳥取駅周辺の再整備のイメージ  
 (イメージパースは目指す姿が実現した一例であり、取組の方向性を示すものです。今後、関係者間で協議・調整の上、実現に向けて進めていきます。)

※ 「アンジュレーション」とは、波のうねりや波動、地表の起伏のことを意味します。

## 4-3. 基本方針別の取組内容について

### (1) 基本方針別の取組内容

基本方針別に以下に示す内容を取り組み、鳥取駅周辺再整備を進めます。

#### 基本方針① 集約型交通ターミナル機能の再編

- 鉄道、バス、タクシー、自家用車、レンタカー、自転車などの多様な交通モード間のシームレスに乗り換えができる集約型交通ターミナルへ再編します。
- 災害、豪雪への対応や、将来的には新モビリティへの対応も可能な交通結節点を整備します。

##### 求められる役割

- |            |                 |                 |
|------------|-----------------|-----------------|
| ○交通結節機能の強化 | ○乗換のシームレス化      | ○公共交通の利用促進      |
| ○災害時の防災力強化 | ○豪雪時のターミナル機能の維持 | ○周辺道路ネットワークの円滑化 |

求められる役割を実現するための施策を以下のとおりとします。

##### 具体的な施策

- 交通結節機能の強化
  - ・バスターミナル、交通広場の再編
  - ・バス、タクシーと一般車の分離
  - ・駐車場の集約、再編
  - ・新モビリティサービスの導入
  - ・シェアリングモビリティサービスの導入
- 乗換のシームレス化
  - ・バスターミナル、交通広場の再編 ※再掲
  - ・駐車場の集約、再編 ※再掲
  - ・バスターミナル、交通広場と既存施設も含めた再編
  - ・MaaS 環境整備等による乗り継ぎの円滑化
- 公共交通の利用促進 ○災害時の防災力強化
  - ・待合環境の整備、交通情報の発信
- 災害時の防災力の強化 ○豪雪時のターミナル機能の維持
  - ・災害時の交通機能の維持、余裕スペースの確保
- 周辺道路ネットワークの円滑化
  - ・駅周辺道路の円滑化

など

※上記の内容は、今後の検討内容に応じて変更する可能性があります。

<具体的な施策のイメージ(抜粋)>

■バスターミナル、交通広場の再編

バスターミナル及び交通広場の再編を行い、利用しやすく機能が集約されたターミナルを整備します。また、乗り継ぎ利便性や駅を介した南北のアクセス性を高めるために、高架下に交通広場を設けます。改札との近接性も高めることで、来訪者の玄関口となる鳥取駅周辺で、観光やビジネスへのワクワク感を高めるものとします。

求められる役割 ○交通結節機能の強化 ○乗換のシームレス化



図 高架下交通広場のイメージ

<交通広場の再編における留意点(鳥取駅周辺リ・デザイン会議意見等より)>

- 出入口部の安全性や円滑性
- バスやタクシーと一般車の輻輳
- バス待機バスの適正量の確保
- バス運転手の待機空間への配慮
- 自転車やレンタサイクル、レンタカー等の主幹交通以外の乗り継ぎ利便性の確保 など

■災害時の交通機能の維持、余裕スペースの確保

バスターミナル内に余裕スペースを確保し、豪雪時の雪の退避場所や、臨時運行が必要となるバスの待機スペースとするなど、災害時においても地域の基幹交通であるバス路線が可能な限り維持できるよう機能を検討します。

- 求められる役割
- 災害時の防災力強化
  - 豪雪時のターミナル機能の維持



図 豪雪時の鳥取駅

### ■新モビリティサービスの導入

将来的には自動運転をはじめとする新モビリティが導入されることが想定されます。そうした際に柔軟な受け入れができるように、余裕スペースの確保や通信環境の整備などに取り組みます。

#### 求められる役割

○交通結節機能の強化



図 新たなモビリティのイメージ

出典：2040年、道路の景色が変わる(国土交通省)



図 本市の自動運転バス試乗体験会

### ■駅周辺道路の円滑化

鳥取駅周辺には2か所の主要渋滞箇所(今町2丁目、天神町)があるとともに、本市内外を運行する複数のバス路線が輻輳しています。交通ターミナルの整備により周辺交通流動が変化し、道路交通の円滑化に繋がる取組となるよう検討します。

#### 求められる役割

○周辺道路ネットワークの円滑化

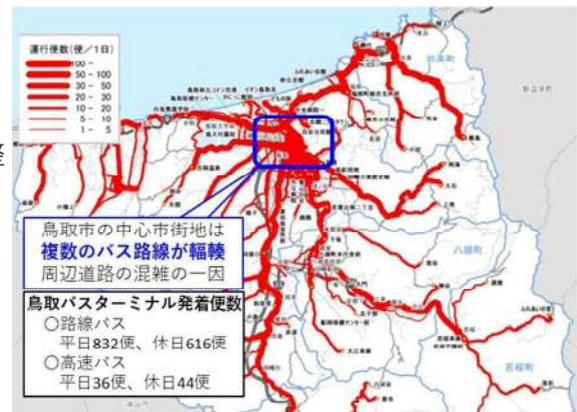


図 バスの区間別運行便数

出典：鳥取県東部地域公共交通計画(令和5年9月変更 鳥取県東部地域公共交通活性化協議会)

### ■待合環境の整備、交通情報の発信

公共交通の待ち時間を充足した時間にできるよう、待合環境の高質化を図ります。また、併せて鳥取駅周辺の情報発信の拠点となるよう機能を充実します。

災害時においては、一時避難場所としても機能できるように、備蓄品の保管や設備投資を行います。

#### 求められる役割

○公共交通の利用促進 ○災害時の防災力強化



図 高質な待合環境のイメージ

出典：三宮周辺地区再整備基本構想

## 基本方針② まちなかへ賑わいを滲み出す空間整備

- 若者や子育て世代が、過ごしやすく、回遊しやすい人中心の滞留空間の強化に向けて、賑わい広場や歩行デッキなどの空間を整備します。
- 地域の活動拠点や多様な人々の交流機会を創出する場として、商店街などのまちなかとの連携に配慮した空間整備をします。

### 求められる役割

- 回遊、滞留機能の強化
- 若者や子育て世代の憩いの空間
- 多様な人々の交流機会創出
- 市街地との賑わい連携
- 祭りやイベント等の地域の活動拠点

求められる役割を実現するための施策を以下のとおり考えます。

### 具体的な施策

- 回遊、滞留機能の強化
  - ・デッキ、平面広場等のオープンスペースの整備
  - ・オープンスペース、ベンチ等休憩施設の整備
  - ・一時避難場所の整備、帰宅困難者の受け入れ
  - ・地下通路の改良、ペDESTリアンデッキの整備
  - ・新モビリティサービスの導入
- 若者や子育て世代の憩いの空間
  - ・デッキ、平面広場等のオープンスペースの整備 ※再掲
  - ・オープンスペース、ベンチ等休憩施設の整備 ※再掲
- 多様な人々の交流機会創出
  - ・デッキ、平面広場等のオープンスペースの整備 ※再掲
  - ・オープンスペース、ベンチ等休憩施設の整備 ※再掲
- 市街地との賑わい連携
  - ・共通クーポン、イベントなどの商店街との連携
- 祭りやイベント等の地域の活動拠点
  - ・デッキ、平面広場等のオープンスペースの整備 ※再掲
  - ・オープンスペース、ベンチ等休憩施設の整備 ※再掲
  - ・一時避難場所の整備、帰宅困難者の受け入れ ※再掲

など

※上記の内容は、今後の検討内容に応じて変更する可能性があります。

<具体的な施策のイメージ(抜粋)>

■デッキ、平面広場等のオープンスペースの整備

若者や子育て世代が駅前広場に集い、楽しみ、滞留できる空間を創出するために広場等のオープンな空間を整備します。広場空間は日常的に滞留空間として利用するだけでなく、地域のイベントや災害時の一時避難場所、積雪時の雪の退避場所など、多様な活用方法が期待されます。

求められる役割

- 回遊、滞留機能の強化
- 若者や子育て世代の憩いの空間
- 多様な人々の交流機会創出
- 祭りやイベント等の地域の活動拠点



図 広場空間のイメージ



図 姫路駅の駅前広場イベントスペース



図 福井駅の多目的な広場(左:ハピテラス(全天候型)、右:屋外)



図 博多駅の駅前広場イベントスペース



図 金沢駅の駅前広場

### ■地下通路の改良、ペDESTリアンデッキの整備

鳥取駅周辺とまちなかとは、地下通路やペDESTリアンデッキ等で接続し、既存の商店街や商業施設とも物理的に連携できるような再整備を行います。また、まちなかとの連続性を意識した回遊性や滞留性の創出に繋がる整備を行います。

求められる役割 ○回遊、滞留機能の強化



図 広場空間のイメージ



図 まちなかと一体的な駅前広場(姫路駅)  
出典 国土交通省



図 まちなかまで見渡せる景観(新潟駅)  
出典 新潟都心地域の目指す姿



図 商業施設を繋ぐ駅前のデッキ(仙台駅)



図 まちなかを見渡すことができる  
駅前のデッキ(徳山駅)

### 基本方針③ 市民が集いたくなる利便施設・公共公益施設の整備

- JR やバス利用者などの公共交通利用者が快適に過ごせる待合環境の利便性向上や市民が日常的に駅に集うライフスタイルの創出を目指し、文化施設などの公共公益施設を整備します。

#### 求められる役割

- 文化機能の充実
- 教育や人材育成などの創造の場
- 情報発信の充実
- コンベンション機能の確保
- 地域発の新たなビジネスの創造の場
- 観光振興の支援
- まちづくり等の活動の場

求められる役割を実現するための施策を以下のとおり考えます。

#### 具体的な施策

- 文化機能の充実
  - ・候補案：図書機能、展示機能、ホール機能
- コンベンション機能の確保
  - ・コンベンション施設の導入
- まちづくり等の活動の場
  - ・インキュベーション施設、まちなかキャンパスなどの導入
  - ・公民学連携によるまちづくりプラットフォームの導入
- 教育や人材育成などの創造の場
  - ・子育て施設（一時預かり所、学習スペースなど）の導入
  - ・社会参加機能の導入
  - ・インキュベーション施設、まちなかキャンパスなどの導入 ※再掲
- 地域発の新たなビジネスの創造の場
  - ・インキュベーション施設、まちなかキャンパスなどの導入 ※再掲
- 情報発信の充実 ○観光振興の支援
  - ・統合型情報発信施設の整備

など

※上記の内容は、今後の検討内容に応じて変更する可能性があります。

<具体的な施策のイメージ(抜粋)>

#### ■文化機能の充実(候補案：図書機能、展示機能、ホール機能)

既存の複数の文化施設が老朽化していることから、鳥取駅周辺への機能集約を検討します。ただし、施設の集約に係るリスクやコストを勘案し、実現可能性を踏まえた検討が必要です。

#### 求められる役割

- 文化機能の充実
- コンベンション機能の確保



図 博多駅直結のホール  
出典：JR 九州ホール HP

### ■公民学連携によるまちづくりプラットフォームの導入

公共と民間、大学等が連携して鳥取駅周辺再整備後にまちに賑わいをつくり、維持していくことをマネジメントする組織が必要です。鳥取駅周辺の複合施設内などフィールドに近い場所に拠点を設け、さまざまな立場の人達がふれあい、次の世代の人材を育てます。

#### 求められる役割

○まちづくり等の活動の場



図 松山アーバンデザインセンターの活動の様子  
出典 松山アーバンデザインセンター年間報告書 2022

### ■インキュベーション施設、まちなかキャンパスなどの導入

駅の複合施設は、中心市街地へのアクセスが良いことから、インキュベーション施設やまちなかキャンパスなどの地域の学生や若者が集う空間を整備することを検討します。

#### 求められる役割

○まちづくり等の活動の場

○教育や人材育成などの創造の場

○地域発の新たなビジネスの創造の場



図 札幌駅近接のインキュベーション施設  
(ラウンジやセミナールーム、貸しオフィスなどがあり、定期的にイベントを開催)  
出典 HOKKAIDO xStation01 -Social Good Birth Hub- HP

### ■統合型情報発信施設の整備

鳥取駅周辺の情報発信の場として、地域情報や観光情報などの情報発信施設の整備を検討します。また、災害時には、災害情報を発信する場として活用します。なお、情報発信は国内外からの来訪者に向けたものとし、多言語化などにも配慮します。

#### 求められる役割

○情報発信の充実 ○観光振興の支援



図 情報発信施設のイメージ

出典 三宮地区再整備基本構想

## 基本方針④ 民間の誘導・整備による多機能な複合施設の整備

- 既存施設や商店街などとの連携にも配慮しつつ、魅力ある商業機能、宿泊や住居機能、業務やイノベーション機能を備えた民間施設整備の誘導など、複合施設の整備を図ります。
- 民間投資を誘導するためには、民間の有するノウハウや資金力を最大限に活かした PPP などの整備手法の活用を検討します。

### 求められる役割

- 商業(収益)機能の確保
- 来街意欲の喚起や来街促進
- 宿泊や住居機能による拠点性強化
- 集客性の向上
- まちなかへの経済波及、循環
- 駐車場等の収益機能の確保

求められる役割を実現するための施策を以下のとおり考えます。

### 具体的な施策

- 商業(収益)機能の確保
  - ・スーパーや百貨店、コンビニ、カフェ、飲食などの導入
  - ・マンション、ホテルなどの導入
- 来街意欲の喚起や来街促進
  - ・スーパーや百貨店、コンビニ、カフェ、飲食などの導入 ※再掲
- 宿泊や住居機能による拠点性強化
  - ・マンション、ホテルなどの導入 ※再掲
- 集客性の向上 ○まちなかへの経済波及、循環
  - ・スーパーや百貨店、コンビニ、カフェ、飲食などの導入 ※再掲
  - ・マンション、ホテルなどの導入 ※再掲
  - ・駐車場の集約、再編
- 駐車場等の収益機能の確保
  - ・駐車場の集約、再編 ※再掲

など

※上記の内容は、今後の検討内容に応じて変更する可能性があります。

<具体的な施策のイメージ(抜粋)>

### 商業、宿泊、住居機能の導入

集客力の高い機能を鳥取駅周辺へ誘致することで、来街意欲を高め、まちなかへの波及効果を期待します。スーパーや百貨店等の買物できる環境のほか、ホテルやマンションなどの宿泊や住居機能の誘致も検討し、拠点性を高めます。

#### 求められる役割

- 商業(収益)機能の確保
- 来街意欲の喚起や来街促進
- 宿泊や住居機能による拠点性強化
- 集客性の向上
- まちなかへの経済波及、循環

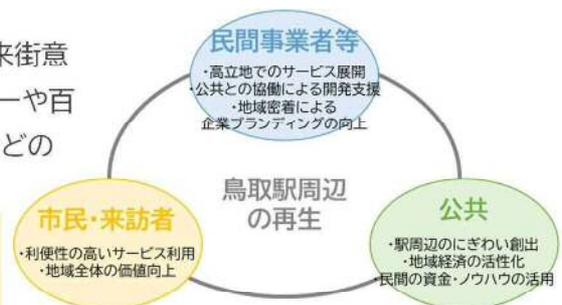


図 民間投資によるメリット

<参考:備えるべき機能と具体的な施策>

表 備えるべき機能と具体的な施策

鳥取駅周辺再整備に必要な施設及び機能				対象	求められる役割																	具体的な施策												
基本方針	施設配置	機能(大分類)	機能(細分類)		交通結節機能の強化	乗換のシームレス化	公共交通の利用促進	災害時の防災力強化	維持	豪雪時のターミナル機能の円滑化	周辺道路ネットワークの円滑化	回遊、滞留機能の強化	憩いの空間	若者や子育て世代の多様な人々の交流機会創出	市街地との賑わい連携	祭りやイベント等の地域の活動拠点	文化機能の充実	コンベンション機能の確保	まちづくり等の活動の場	教育や人材育成などの創造の場	地域発の新たなビジネスの創造の場		情報発信の充実	観光振興の支援	商業(収益)機能の確保	来街意欲の喚起や来街促進	拠点性強化	宿泊や住居機能による	集客性の向上	まちなかへの経済波及、循環	駐車場等の収益機能の確保			
① 集約型交通ターミナル機能の再編	交通ターミナル	バス・タクシー	交通結節・ターミナル機能	バスの乗降機能	公共交通利用者	●	●																									バスターミナル、交通広場の再編		
			タクシーの乗降機能	"	●	●																										"		
		待合機能	-	"			●	●																								待合環境の整備、交通情報の発信		
		防災機能	災害、豪雪時の防災機能	"				●	●																							災害時の交通機能の維持、余裕スペースの確保		
	一般車	交通結節・ターミナル機能	一般車送迎機能、乗換機能	公共交通利用者、自動車利用者	●																											バス、タクシーと一般車の分離		
		駐車機能(駅利用、送迎)	"	"	●	●																										駐車場の集約、再編		
		新たな交通サービス機能	-	新たな移動需要	●																											新モビリティサービスの導入		
	その他	交通機能	シェアリング機能	乗換の利便性機能(自転車やレンタサイクル、レンタカー等のパーソナルモビリティ)	駐輪場との近接機能	自転車利用者		●																								バスターミナル、交通広場と既存施設も含めた再編		
				レンタサイクルと乗換機能	来訪者、観光客		●																										"	
				レンタカーとの乗換機能	"		●																										"	
周辺交通	全般	交通の円滑化機能	-	公共交通利用者、自動車利用者						●																					MaaS環境整備等による乗り継ぎの円滑化			
② まちなかへ賑わいを しみ出す空間整備	広場・デッキ等		賑わい機能	-	若者、子育て世代						●	●	●		●																	デッキ、平面広場等のオープンスペースの整備		
			滞留機能	-	"							●	●	●		●																	オープンスペース、ベンチ等休憩施設の整備	
			防災機能	-	市民、来訪者、観光客								●				●																	一時避難場所の整備、帰宅困難者の受け入れ
			回遊機能	-	"								●																					地下通路の改良、ペDESTリアンデッキの整備
			新たな交通サービス機能	歩行支援機能	新たな移動需要								●																					共通クーポン、イベントなどの商店街との連携
③ 市民が集い 公共施設 の整備	複合施設	公共施設	公益機能	文化的機能	市民、来訪者、観光客												●														候補案:図書機能、展示機能、ホール機能			
				"	"															●													コンベンション施設の導入	
			子育て機能	子育て世代																		●											子育て施設(一時預かり所、学習スペースなど)の導入	
			福祉機能	市民																		●											社会参加機能の導入	
			イノベーション機能	起業家、学生等																		●	●	●									インキュベーション施設、まちなかキャンパスなどの導入	
			賑わい機能	まちづくりマネジメント機能	行政、民間、大学、NPO等																	●											公民学連携によるまちづくりプラットフォームの導入	
④ 民間の誘 導・整備 による 多機能な 整備	民間施設	賑わい機能	商業(収益)機能	"																			●	●							スーパーや百貨店、コンビニ、カフェ、飲食などの導入			
			宿泊、住居機能	"																				●		●	●					マンション、ホテルなどの導入		
			駐車機能(施設利用)	"																							●	●	●			駐車場の集約、再編		

## (2) 期待される効果

4つの基本方針に基づき、取り組む鳥取駅周辺の再整備においては、交通結節機能の強化や広場空間における回遊・滞留機能の強化による賑わい創出、公共公益施設などの整備による拠点性強化、さらには民間投資による地域経済の好循環を生み出すことが期待されます。

鳥取駅周辺の再整備は、駅に留まることなく、まちなかを含めた周辺地域へ広範囲に波及効果を及ぼすことが期待されます。またその効果は、短期的に発現する直接効果に加えて、中長期的に波及する効果、さらには、将来、地域へ及ぼす影響として広がり、目指す将来像の実現へ繋がっていきます。



民間施設(賑わい機能)

▲富山駅(商業施設)



複合施設(公共公益機能)

▲博多駅(ホール)



賑わい広場(全天候型)

▲福井駅(ハピテラス)



賑わい広場(イベント)

▲姫路駅



高架下交通広場

▲富山駅



交通ターミナル

▲金沢駅

図 機能と鳥取駅周辺への波及

<参考:期待される効果と地域への影響のロジックの例>

駅周辺の再生によって、地域へ及ぼす多様な効果が期待されます。今後、具体的な整備内容に応じてどのような効果が発現されるか体系的に整理したイメージは以下のとおりです。

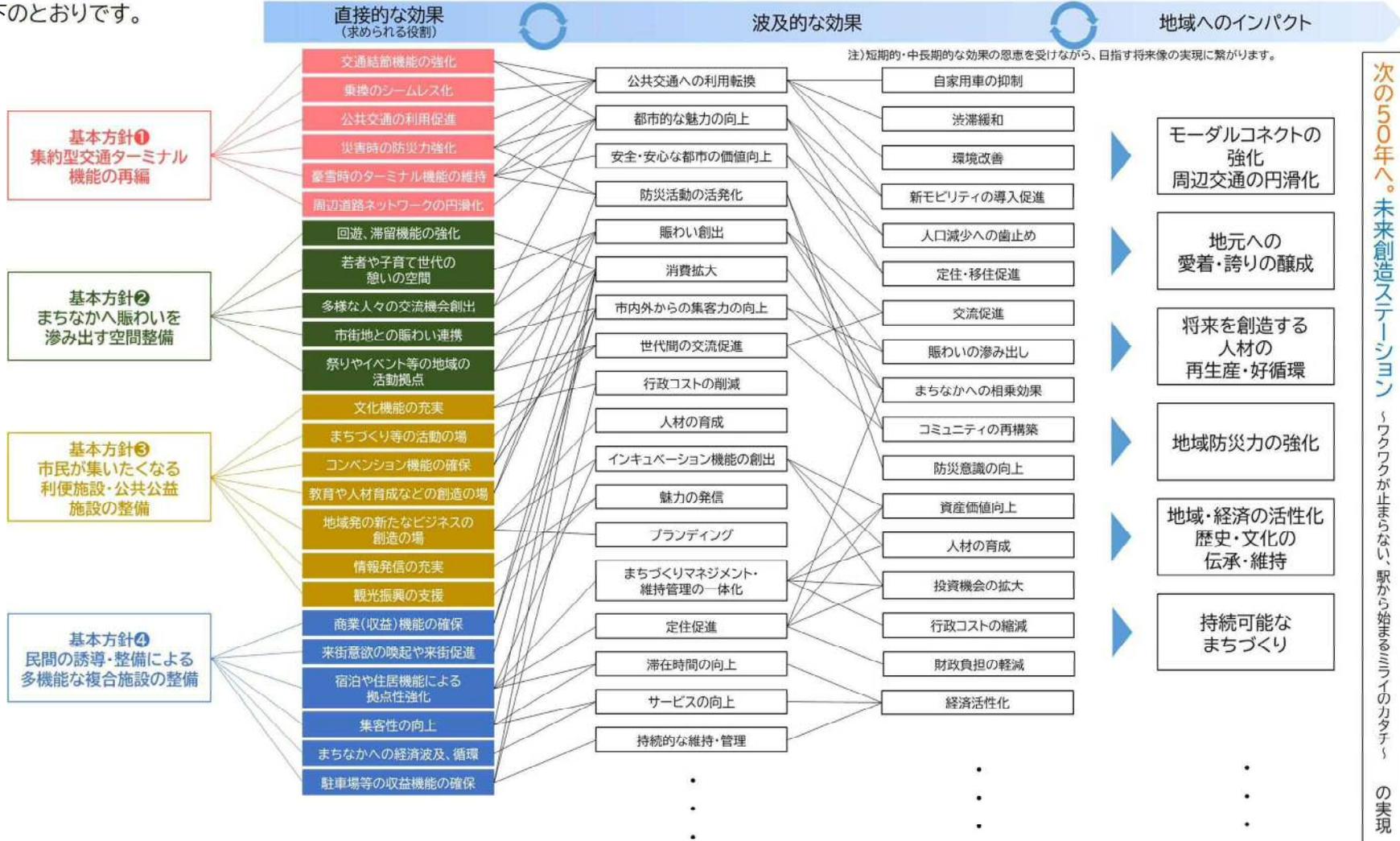


図 期待される効果の発現のイメージ

### (3) 駅で育まれるワクワク

#### ① 駅利用者のペルソナ※

鳥取駅周辺の再生により、若者や子育て世代をはじめとする市民や観光客がワクワクを感じながら、駅に集い、楽しみ、語らい、過ごし、学び、考え、交流できる機能を整備し、鳥取に住む人を育て鳥取に住みたいと思う人の流れを生みだし、循環し続けるミライを創造します。

<p><b>ペルソナ①</b>  <b>地元高校生 10代</b>                  ・通学は路線バスから自転車に乗り換えて通っている                  ・休日は郊外のイオンへ行く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 駅で気軽に勉強したり休憩したりできる場所がない。</li> <li>● 鳥取バスターミナルでバスを降りてから駐輪場までが遠く、毎朝不便に感じている。</li> <li>● 学校帰りや休日に友達と遊びに出かける場所が少ない。</li> </ul>	<p><b>ペルソナ②</b>  <b>ファミリー 30代</b>                  ・本市に住んで子供2人を育てており、移動手段は自家用車が多い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 休日は車で郊外の大型施設に出かけているが、距離が遠く、移動が負担になっている。</li> <li>● 子どもを遊ばせる場所がいつも同じ場所で刺激がない。また、子育ての事について話せる知り合いを求めている。</li> </ul>	<p><b>ペルソナ③</b>  <b>夫婦 60代</b>                  ・大阪在住、夫婦での旅行。列車で来たので公共交通で鳥取を巡る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 鳥取を象徴する砂丘などのイメージが鳥取駅周辺になく、さみしい感じがした。</li> <li>● お昼ご飯を食べたいが、商店街は閉まっている。</li> <li>● 鳥取駅からバスに乗って砂丘に行きたいが、どのバス停から乗って、何時に出るか分かりにくい。</li> </ul>
--	--	---

次の50年へ。未来創造ステーション  
 -ワクワクが止まらない、駅からはじまるミライのカタチ-

#### ペルソナ① 地元高校生 10代

列車やバスの待ち時間や送迎を待つ間に、友達とベンチや駅前広場でおやつを食べながら語りあって過ごしている。

駅構内のカフェ（徳山駅）

休日は、友達と複合施設内で人気アーティストの美術展やコンサートを観たり、おしゃれなカフェでスイーツを食べたり青春を謳歌している。

出典 徳山駅前図書館HP



広場空間でくつろぐ人達(福井駅)

部活のない放課後は、商店街のカフェや駅近くの図書館で友達と一緒に勉強している。

列車と路線バス、自転車(駐輪場)の乗り換えがスムーズになり、通学の負担が減った。



駅と一体となった図書館（徳山駅）

出典 徳山駅前図書館HP

※ 「ペルソナ」とは、マーケティング分野においてサービスを提供する仮想的な人物像のことを意味します。

ペルソナ② ファミリー 30代

複合施設内の子育て施設で知り合った同世代の親子と一緒に週末の駅前マルシェに参加するのが楽しみ。



駅前広場で子供を遊ばせたり、家族で食事をしたり、映画を見たり、休日は郊外から駅前や商店街で過ごすようになった。

鳥取駅周辺で遊んだ帰りは、図書館で本を借りたり、ウィンドウショッピングをして、親子で買物を楽しんでいる。



車の移動距離も短くなって、移動がコンパクトになった。

出典 たじみ DMO

ペルソナ③ 夫婦 60代

駅を出ると鳥取を象徴するシンボルがあったので、久しぶりに夫婦で並んで写真を撮った。



砂丘行のバスの停留所と出発時刻が待合所ですぐに確認できたので、座って待ちながら旅行の予定を考える。

駅のホテルに荷物を置き、昼食は観光案内所で案内ロボットにおすすめしてもらった商店街のカレー屋さんへ行くことに。



出典 三宮周辺地区再整備基本構想



帰りの列車まで時間があったので、駅の飲食店で地酒と旬の食材を満喫した。

出典 鳥取市観光サイト

## ②駅利用者が起こすイノベーション

鳥取の未来をけん引する人材が駅を拠点に集い、出会い、学び、交流し、活発なイノベーションを起こすことで、鳥取の魅力・磁力を高め、新たな人材を育むなど、さらなる好循環を創造します。

## 学生や若手社会人もまちづくりを学ぶ機会

- まちなかキャンパスで、複数校の学生や若い社会人、地域住民、自治体などが集まってまちづくりワークショップを行うなど、まちづくりを通じて様々な立場の交流の場を生みだします。
- まちなかキャンパスで、地域住民や学生、教職員が集い、地元企業が講座を開催してまちについて語り合う機会があるなど、若者のまちへの愛着を育みます。



## だれもが積極的にビジネスに挑める機会

- インキュベーション施設のような、起業家(イントレプレナー、アントレプレナー※)が積極的に新しいビジネスを起こせる環境があるため、新たな取組みにチャレンジする人達が集まります。
- シェアオフィスなど、仕事をする場所に困らないため、多様な働き方が実現します。



## 商店街や地元企業が新たな商品を売り出す機会

- 商店街や駅前広場で、定期的にマルシェやイベントを開催して、多様な人が集う機会を設けます。
- チャレンジショップなどで、地元企業や他地域からも新しい商品を手軽に売り出せる場があり、新たな取組みに挑戦しやすい環境をつくれます。



出典 にいがた観光ナビ

※ 「イントレプレナー」とは、既存の組織や企業内で、新しいアイデアやプロジェクトを立ち上げ、それを推進していく人、「アントレプレナー」とは、新しい事業や企業を立ち上げ、経営する人を意味します。

## 5 鳥取駅周辺の再生に向けて

### 5-1. 今後のスケジュール

本計画は鳥取駅周辺の再生に向けて、再整備の方向性や目指す将来像を示しているものです。今後、本計画の実現のために、実態調査の実施や詳細イメージ・整備手法の検討などを行い、鳥取駅周辺再生整備計画をとりまとめしていくこととします。これにより、鳥取駅周辺再整備の具体的な方向性が定まり、産官学金が一体となった事業化を行うことができ、設計・施工などの実現的な段階へ進むことができます。

鳥取駅周辺の再生は整備して終わりではなく、その後の管理運営をどのようなスキームで行うかも重要な視点です。計画の検討に当たっては、関係団体と連携して管理運営の視点も留意しながら、麒麟のまち圏域の拠点として賑わいやイノベーションを生み出すにふさわしい鳥取駅周辺再整備を行います。

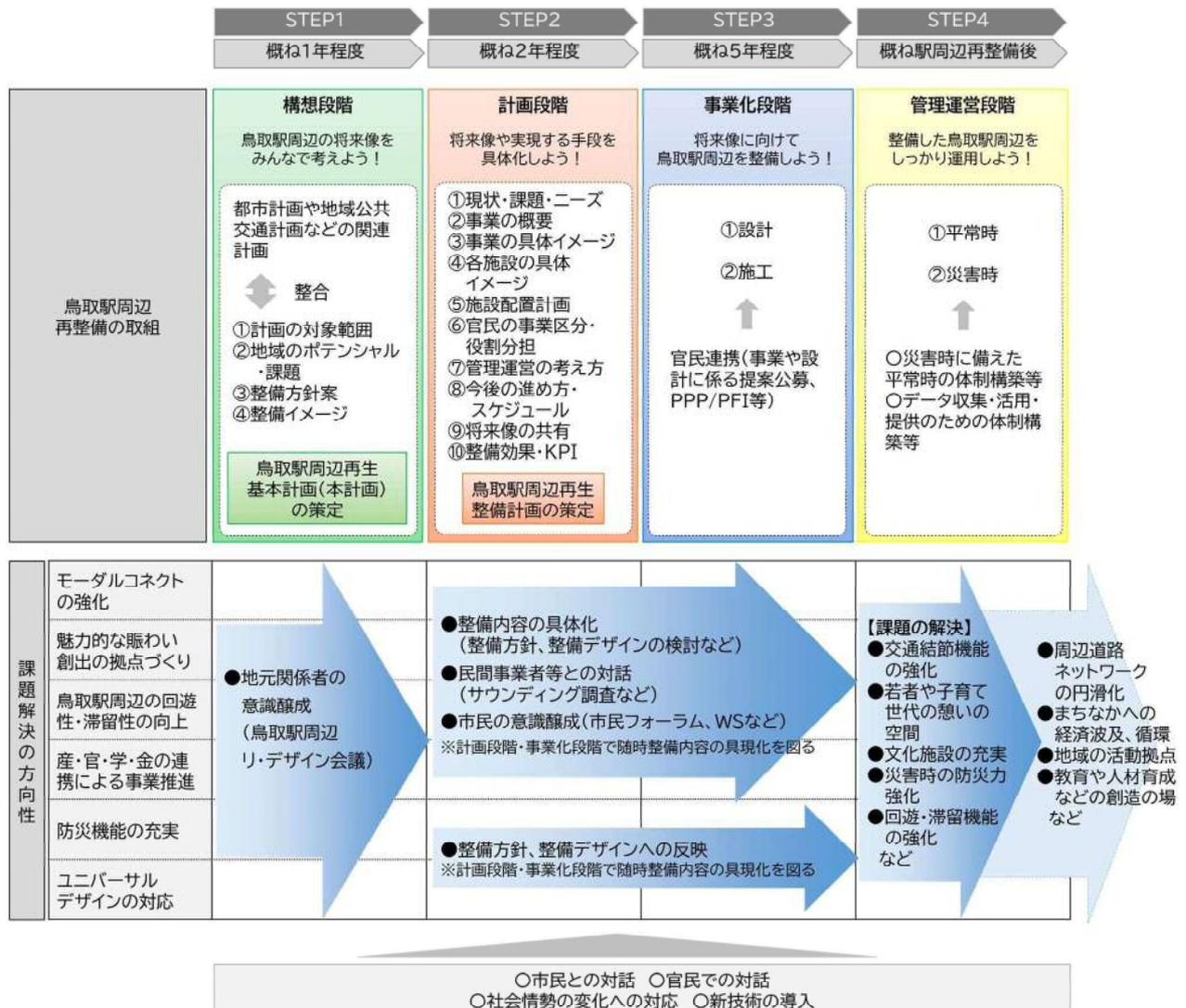


図 鳥取駅周辺の再生に向けた進め方

## 5-2. 今後の検討課題

本計画を作成するにあたり、関係各者からの意見を踏まえ今後も検討を継続すべき事項を整理します。これらの課題は今後、鳥取駅周辺の再生を進めるなかで、関係者と調整を重ねながら課題解決に向けて取り組みます。

### 市民・地元関係者との継続的な対話

- 鳥取駅周辺再整備後も多くの人に愛され続ける鳥取駅周辺としていくためには、地元関係者と連携して、中心市街地の活性化も含めた視点で整備のあり方を検討していくことが重要です。
- 新たな都市的機能を整備する上で、地域固有の歴史や文化、地域産業の伝承・維持は不可欠であり、市民などの意見も反映しながら地域に調和したデザインなどによる施設整備を検討していきます。
- また、施設が完成してからではなく、計画段階から市民や地元関係者との対話を継続し、賑わい広場や公共空間をどのように活用していくかなど、完成後の使い方を一緒になって考えていくことが重要です。

### まちづくりの担い手と管理・運営の一体的なあり方

- 鳥取駅周辺の再生によって、新たに整備される施設が持続的に更新・発展していくためには、施設の管理・運営に加え、まちづくりも含めた一体的なマネジメントを行う組織が重要であると考えます。
- 上記と同様に計画段階から、将来的な管理・運営やまちづくり組織のあり方についても地元地域や関係機関、民間事業者などと対話しながら進めることが必要です。
- 特に、複合施設などを考えていく上では、民間投資を誘導することに加えて、公共公益施設の再編・統合や収益確保が見込まれる駐車場施設の導入などの可能性も含めて多角的な視点をもって検討を進めます。

### 適切なニーズなどの把握

- 官民連携による複合施設のあり方やPPPなどの整備手法の活用を検討にあたっては、社会情勢などを踏まえ民間投資の可能性を適切に把握していくことが重要であるため、今後は、具体的な整備計画の策定に向けて、幅広く民間事業者などを対象にサウンディング調査を進めていきます。
- また、行政や関係団体との連携も不可欠であり、例えば、鳥取駅を中心とした中心市街地全体でのウォーカブルのあり方、老朽化した公共公益施設の再編・統合などの方針、既存のインキュベーション施設等の役割分担など、各まちづくりなどの方針との整合性や調整に取り組みます。